

伊の名劇作家 魅力紹介

庶民描いた エドゥアルド・デ・フィリッポ

DVD付き作品集刊行

20世紀イタリアを代表する劇作家エドゥアルド・デ・フィリッポ（1900～84年）の戯曲集（全5巻）の刊行を、福岡市の日伊文化交流施設「イタリア会館・福岡」が始めた。テレビで放送された芝居のDVDを付けた豪華本で、オーソン・ウェルズやフェデリコ・フェリーニら欧米の映画人にも大きな影響を与えながら、日本ではほとんど無名だった巨匠の魅力に迫ろうとの試みだ。

（白山誠）



エドゥアルド・デ・フィリッポ戯曲集の第1巻

フィリッポは喜劇中心に60作以上の戯曲を残した。庶民に寄り添いながら、その暮らしや素朴な心情をリアリティをもっと描いているのが特徴だ。

同会館のドリアーノ・スリス館長（65）は「イギリスのシエクスピア、ドイツでいえばブレヒトのように、イタリアでは知らない人はいない。母国で尊敬されている劇作家のすばらしさを、日本人たちにも伝えたい」と、企画した理由を語る。

第1巻「デ・プレトーレ」



女優イングリッド・バーグマン（右）、モニカ・ヴィッティ（左）と写真に納まるフィリッポ（1978年、イタリア会館・福岡提供）

「貧しい生い立ちでやむなく泥棒になった若い男プレトーレと、ささやかな幸せを夢見る娘のはかない恋を、現世利己的な色彩が濃い、土俗的なキリスト教信仰を背景にして描く。街の守護神に泥棒稼業の許しを請うのではなく、盗みがうまくいくことを願いつけるプレトーレ。物語は笑い」と悲哀に満ちたクライマックスを迎える。

「裸のままの人間を描くのがフィリッポ作品の特徴。これまで、コメディ的な部分だけが注目され、人間洞察に富んだ点が理解されなかったことが、日本で知名度が上がらなかった一因ではないか。戯曲を読んでもらえれば、日本人たちにも必ず共感される」とスリス館長。翻訳にあたっては、イタリア人の素朴な人情や感覚を、できるだけ平易な日本語で、忠実に、わかりやすく伝え、理解してもらえるよう心がけたという。

各巻とも1作品を収録、年に2巻程度のペースで刊行し、2014年には完結させる計画。来年1月の刊行をめざす第2巻「クピエツロ家のクリスマス」（1931年）は、一家だんらんのはずのクリスマスに巻き起こる騒動を描く。時代に取り残された父親の悲哀が喜劇的に描かれる。第3巻は代表作「サニタ地区のゴッドファーザー」（60年）、第4巻は人気作「幽霊たち」（46年）、最終巻は映画「あゝ結婚」の原作として知られる「フィルムナ・マルトゥラーノ」（同）を予定している。

第1巻は4500円税別。

問い合わせは同会館（092

761-8570）へ。